

美術館 ニュース

群馬の森

no. 195
2024 1/1

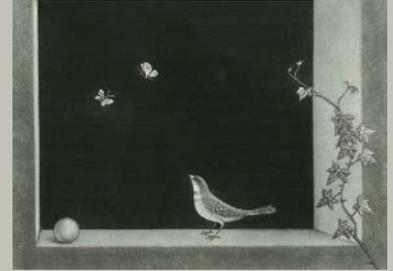
長谷川 潔 銅版画の世界



《丘上の牛(大島)》1914年
板目木版 寄託作品



《二つのアネモネ》1934年
アクアチント 寄託作品



《小鳥と胡蝶》1961年
メゾチント 寄託作品

2024年3月2日[土] - 4月7日[日]

会場：展示室 1

休館日：毎週月曜日

開館時間：午前9時30分 - 午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般 300 (240)円、大高生 150 (120)円

* () 内は 20 名以上の団体割引料金

* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者 1 名は無料



《アカリヨムの前の草花》1969年
メゾチント 寄託作品

長 谷川潔(1891-1980)は、20世紀の版画史にその名を刻む銅版画家です。青年時代を大正期に過ごした長谷川は、詩人たちとも親交を深めながら雑誌や単行本の装丁や挿絵を手がけ、日本の創作版画の草創を担いました。日本に滞在していた英国人バーナード・リーチから銅版画の一技法であるエッチングを学んだのち、本格的に銅版画技法を習得するため、1918年にフランスへ渡ります。フランスでは、ドライポイントやエンブレイヴィングなど、さまざまな銅版画技法を研究し、以後帰国することなく同地で制作をつづけました。とりわけ、19世紀の写真の登場以降廃れていた銅版画技法メゾチント(マニエール・ノワール)を再興した功績は大きなものがあり、その静謐で深遠な作品は国際的に高く評価されています。

本展では、当館へ新たに寄託された個人コレクションと当館所蔵作品より、渡仏後に制作された銅版画を中心に、鉛筆デッサンや渡仏以前の木版画など貴重な作品を含む 115 点を紹介します。自然の神秘への細やかで鋭いまなざしと、研ぎ澄まされた描写力が結実した長谷川潔の銅版画世界をご堪能ください。

【関連事業】

会期中、記念講演会、学芸員による作品解説会を予定しています。
詳細は当館ホームページでお知らせします。



《水浴の少女と魚》1971年
ドライポイント 群馬県立近代美術館蔵

「創作において自由なる競創」展の関連事業 開催報告

秋の企画展示「創作において自由なる競創ー 19、20世紀の芸術家とポスター」展では、世紀末、20世紀のポスターデザインに詳しい福井市美術館の河野泰久氏、当館特別館長岡部昌幸による講演会を開催しました。また、イラストレーター芳野さんを講師に迎え、はがき大の小さなリトグラフを作る「ミニリトグラフ・ワークショップ」を開催しました。

記念講演会「19世紀末から20世紀のポスターの流れー芸術家たちの自由なる競創ー」

講師：河野泰久(福井市美術館副館長)

10月7日(土)

本展の図録の執筆者である河野さんの講演会では、19世紀末に活躍し、ポスターを芸術として極めたフランスの画家トゥールーズ=ロートレックの作品を中心として、当時のリトグラフの技術、ポスターのデザインから日本の浮世絵が与えた決定的な影響まで、展覧会の前半部分の背景をお話しいただきました。



記念講演会

「ミニリトグラフ・ワークショップ」

講師：芳野(イラストレーター)

10月14日(土)

募集定員を10名としましたが、申し込み開始日に満員となるほど人気がありました。講師の芳野さんが自分だけのポータブルなプレス機を持ってきてくださり、各自はがき大の小さなリトグラフ3枚をドキドキしながら刷りました。本格的なリトグラフではシンナーなどの薬品を使うなど、工程も複雑ですが、今回は簡易な方法で、水と油の反発を利用して刷るリトグラフの原理を知ることができたワークショップでした。



ミニリトグラフ・ワークショップ

特別館長によるスペシャル・トーク

「ポスターの黄金原理ー美しいグラフィック・デザインと芸術のための広告」

講師：岡部昌幸(当館特別館長)

10月22日(日)

当館特別館長による講演会では、文章だけで構成された、15世紀制作の現存する最古の宣伝物から、20世紀初頭に黄金比を用いてポスターデザインを極限にまで洗練させたアドルフ・カッサンドルのポスターまで、図と文字のバランスやタイポグラフィも含めたグラフィック・デザインとしてのポスターの歴史をダイナミックな視点でお話しいただきました。



特別館長によるスペシャル・トーク

M u s e u m | N e w s

令和6年度 新規・継続会員募集

友の会は、会費や館内ショップの利益を活用し、近代美術館を支援している団体です。会員には県内5つの美術館の観覧料の減免等、様々な特典があります。是非この機会にご入会ください。ただし、美術館の休館中(2023年12月20日～2024年3月1日)は、ショップも休店となります。

■会員の種類と年会費 [有効期間は4/1～翌年3/31]

一般会員 2,000円 / 学生会員 1,000円

家族会員 [同居2人分] 3,000円 [3人以上は1人につき1,000円追加]

個人賛助会員 [一口] 10,000円 / 法人賛助会員 [一口] 20,000円

■観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館 [両館あわせて年間2回無料、ほか半額]

高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館 [団体割引相当額]

■主な事業

* 展覧会・教育普及事業・広報への支援・協力のほか、講演会やコンサート等を開催。

* 会報の発行、ミュージアム・ツアーなど、会員のための事業を実施。

◆ミュージアムショップより

* 展覧会カタログの通信販売を行っております。

申込方法など詳しくは美術館 HPの利用案内>ショップ>主要商品>ショップ通信販売をご確認ください。

* 開館中の店頭ではクレジット・電子マネー決済をご利用いただけます。



ミュージアムショップ風景

友の会だより

改修工事による休館のお知らせ

休館期間：2023年12月20日(水)～2024年3月1日(金)

当館では今年度、受変電設備更新工事と特定天井改修工事を行います。このため群馬県展終了後の2023年12月20日から来年3月1日まで、全館休館することになりました。

2021年12月から約半年間の休館に続き、今回は約2か月の休館となります。たびたびの休館となり皆様にはご迷惑をおかけしますが、開館50周年を迎えた当館の建築を今後も安心安全に使い続けていくために必要な工事となりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

今回行う工事の概要は以下のとおりです。

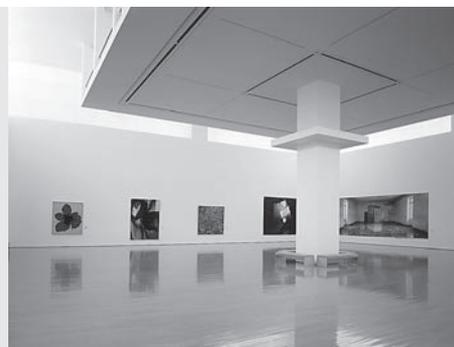
1. 受変電設備更新工事

県立公園「群馬の森」の中にある当館では、公園の外から高圧ケーブルを引き込んで本館内の受変電設備で受電し、現代美術棟や隣の県立歴史博物館、そして低圧化して公園へと分岐しています。今回更新するのは、この高圧ケーブル、受変電設備、館内各所の分電盤までの幹線ケーブルと各分電盤となります。なかには開館以来使い続けている設備もあり、更新工事は先送りできないタイミングにきていました。部分停電、全体停電を伴う工事となるため、順次、計画的に工事を進めていくこととなります。

2. 特定天井改修工事

天井材が金具などで躯体から吊られている天井、いわゆる吊り天井については、東日本大震災での落下事故を受けて法律が改正されたため、面積や高さなどが一定の基準を超えるもの(特定天井)については補強や改修を行う必要があります。当館では前回の休館中にホールおよび中央階段の天井を改修しましたが、今回は残る展示室3の工事となります。

そのほか、1階、2階それぞれの展示室入口に付いているシャッターの修繕工事もこの休館中に行います。展示物や来館者を火災から守る役割も持つシャッターですので、その機能を十全に発揮させるための修繕となります。



展示室3

美術館アートまつり 2024

2024年3月10日(日)

10:00～12:00 / 13:00～15:00

参加無料・申込不要

※当日開催時間中に会場にお越しください。

ホールやアトリエ、講堂など美術館内の各所で様々なイベントを同時開催する、毎年恒例の「美術館アートまつり」。今回は1日限りの開催ですが、4年ぶりに申込不要、定員なしでの開催となります。ぜひお気軽にご参加ください。



美術館アートまつり 2023

※プログラムの詳細は、決まり次第当館ホームページでお知らせします。

夕
ンポポの綿毛を大きくしたような種草とコクリコ(ひなげし)が取手つきの花瓶に活けられている。花瓶の置かれたテーブルや背景は描かれず、わずかに花瓶の影が平行線で示されているのみである。線描は繊細でありながら凛とした雰囲気を含んでおり、背景の余白がその線の美しさをいっそう際立たせている。

本作に用いられたエングレーヴィングという銅版画技法は、菱形の刃先をもつビュランで、直接銅板にV字の溝を彫り込むものである。エングレーヴィング自体、鋭く硬質な線の特徴とするが、長谷川のエングレーヴィングは、西洋の伝統的な陰影表現であるクロス・ハッチングを避け、平行線の粗密によって陰影や量感を表しているため、線の純粋性が強調されている。

銅版画技法は、直接技法と間接技法とに大別される。直接技法は、エングレーヴィングのように、銅板を直接彫る手法で、ニードルで銅板を引っ搔くドライポイント、ベルソーで銅板を目立てて黒い面をつくり、パニッシャーで滑らかにして白い部分を描画するメゾチントが含まれる。一方、間接技法は、銅板を腐蝕させて版を作る技法で、代表的なものとして、エッチングやアクアチントがある。長谷川は、ここに挙げたすべての技法で制作しているが、直接技法を「腐蝕しないほうの本格的かつ古典的銅版画」と呼び、直接技法によって制作することを誇りとしていた。

幼少期に父から書画の薫陶を受けていた長谷川は、書の手本としていた中国の石刻の拓本における線の鋭さに魅せられていたという。「一般に堅い引き締った感じが好きなんです」と語る長谷川にとって、エングレーヴィングの先鋭で純粋な線は理想的なものであったのだろう。鋭い黒の刻線だけで表現するエングレーヴィングは、すべてを黒と白のやわらかなグラデーションによって表現するメゾチント(マニエール・ノワール)とは対照的である。晩年、長谷川はメゾチントに集中的に取り組むことになるが、どちらの技法で制作された銅版画も、清澄な空気に満ち、ありふれた自然のなかにひそむ神秘を感じさせる。



長谷川潔《花瓶に挿したコクリコと種草》
1937年 エングレーヴィング・紙
25.5×20.5cm

*この作品は、3月2日から4月7日まで開催される特別展示「長谷川潔 銅版画の世界」に出品されます。

次回展覧会案内

コレクションのつくりかた／つたえかた

2024年4月20日[土]－6月16日[日]

会場：展示室1

休館日：毎週月曜日（ただし4月29日、5月6日は開館）、5月7日（火）

開館時間：午前9時30分－午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般600(480)円、大高生300(240)円

*（ ）内は20名以上の団体割引料金

*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

当
館が開館50周年を迎える2024年。春は特定天井改修工事および受変電設備更新工事のため、2階のコレクション展示室が全閉室となりますが、1階の企画展示室で所蔵作品の小企画を開催します。

開館前からこつこつと作り上げられた当館のコレクションは、日本と西洋の近代美術、国内外の現代美術、日本と中国の古美術、日本画、染織工芸など、多岐にわたっています。この展示では、そのなかから日本の洋画と西洋の近代美術を中心に上げ、コレクションの成り立ちと個々の作品をわかりやすく解説します。美術作品はそれぞれの作者の芸術家人生の断片であり、唯一無二の個性と魅力を持っています。その内容をひもときことで、あなたにとって、とっておきの1点がみつければ幸いです。



ラウル・デュフィ
《ポール・ヴィヤール博士の家族》1927～33年頃

